

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	合同会社大蔵流狂言山本事務所
公演団体名	大蔵流狂言 山本会

内容
<p>【お話】 狂言についての歴史など、分かり易く噛み砕いてお話しします。</p> <p>【狂言クイズ】 狂言についてのクイズをします。</p> <p>【体験】</p> <ul style="list-style-type: none">・狂言の基本所作（立居・歩く・走る）を体験します。・狂言の発声を体験します。・本公演で共演する際に謡う狂言小謡をお稽古します。 <p>狂言は 650 年前に出来た台詞と仕草の対話劇です。現代のように照明や音響もなく、舞台道具も最低限の物しかなかった中で、台詞と仕草のみで観客に背景を見せながら物語を展開していくには、演者の表現力と発声の正確さ、そして何より観客の想像力が必要になります。狂言クイズでは演者の仕草や言葉を頼りに、何を表現しているのか子供たちに想像してもらい、答えを導く、アクティブラーニングを行ってまいります。体験では、修行を積んだプロの狂言師から体の動きや発声方法を学び、子供たちの表現力を身に付けます。「型」と呼ばれる規則的な狂言所作を学ぶことによって、礼節を学びます。</p>

タイムスケジュール（標準）
<p>【前半】狂言のお話（10分）→狂言クイズ（20分）→立居（15分） －休憩（10分）</p> <p>【後半】歩く・走る（15分）→発声（15分）→狂言小謡の稽古（15分）</p>

派遣者数
3名（主たる指導者1名、他2名）

学校における事前指導
特になし

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	合同会社大蔵流狂言山本事務所
公演団体名	大蔵流狂言 山本会

演目

- ・ 狂言「柿山伏」（光村図書出版 国語教科書小学6年生用掲載）
- ・ 狂言「附子」
- ・ 小舞一番
- ・ お話「狂言の心と日本の文化」

派遣者数

6～7名

タイムスケジュール（標準）

司会進行（「柿山伏」の演目説明含む）5～10分

【鑑賞】狂言「柿山伏」17分

司会進行（「附子」の演目説明含む）5～10分

【鑑賞】狂言「附子」23分

－休憩10分－

【お話】「狂言の心と日本の文化」20分

【ワークショップの成果を発表】10分

【鑑賞】小舞一番 5分

※学校側の希望により、司会進行や狂言についてのお話の時間は融通可能です。

実施校への協力依頼人員

楽屋の準備と舞台清掃をして下さる方。

演目解説

・「柿山伏」 あらすじ

修行を終えて遠路故郷に帰る山伏は、空腹のあまり途中にある柿の木に登って実を食べます。それを見つけ腹を立てた柿の木の持主は、山伏を散々にからかい、ついには山伏が柿の木から飛び降りるはめになります。脚を痛めた山伏、こちらも怒って逆襲に出ますが。。。

・「附子」 あらすじ

貴重品の砂糖に近づかせぬため、「附子」という毒だと偽って出かけた主人。留守番を任された太郎冠者と次郎冠者はそれを怪しみ、決死の覚悟で「附子」に近づき、ついにはその正体を見破ります。砂糖をすっかり食べつくしてしまった二人は帰宅した主人にとんでもない言い訳をします。

・お話「狂言の心と日本の文化」

狂言を通して、日本古来の物の考え方を解説します。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

本公演当日、狂言鑑賞とお話終了後に、演者指導の下、ワークショップを行います。初めに子供たちは発声練習を兼ねて狂言の笑い方や泣き方を体験します。大きい声が出せるようになったら、事前に行ったワークショップで覚えた狂言小謡のおさらいをします。

その後、子供たちだけで狂言小謡を謡い、その謡に合わせて演者が舞います。狂言小謡は簡単な謡なので、事前のワークショップに参加できなかった子供たちも、当日のワークショップで覚えることができ、共演することができます。

児童生徒とのふれあい

子供たちが謡う狂言小謡「蝸牛」に合わせて演者が舞うことによって、会場に一体感が生まれます。

この狂言小謡は650年前の子供たちが実際に謡っていた謡です。謡を通して過去に思いを馳せ、先人たちともふれあうことができます

蝸牛（でんでんむし）の謡は一度聴いたら耳に残る謡なので、実際に公演終了後も口ずさむ子供たちが数多くいます。自ら謡を謡うことで本公演後も持続的に狂言の世界にふれることができます。

一度忘れてしまっても、子供の頃に触れたものは潜在意識の中に残り、大人になって改めて触れた時に拒否反応も違和感もなくその世界に入っていけることができます。子供たちに狂言が印象的で楽しかったと思ってもらえるよう努めていきます。